

# 原発をなくすことが

攻撃にさらされるウクライナの原発  
ザポリージャ原発への送電一時止まる

ウクライナ南部にあり、ロシア軍に占領されているヨーロッパ最大の原子力発電所、ザポリージャ原発（ザポロジエ原発）は、近くの火力発電所から電気をもらい、原子炉を冷却するためのポンプなどを動かしています。8月22日にこの火力発電所が砲撃され、25日には原発近隣で火災が発生。原発への送電線が損傷して2度にわたって電気が来なくなりました。非常用ディーゼル発電機が起動し、電気の供給も復旧しましたが、非常用発電機が起動しなかったり燃料が尽きていたら大変なことになっていました。

ザポリージャ原発は、ウクライナの電力会社の職員が6基のうち2基の原子炉を稼働させ、発電を続けています。砲撃で職員に死傷者も出ており、ロシア軍の支配下で積み重なる運転員の疲労も心配です。ロシアとウクライナは、それぞれ相手が攻撃したと非難し合っていますが、砲撃は原子炉近くの施設にも及んでおり、大事故になれば、ロシアもヨーロッパも広大

な土地が放射能に汚染されてしまいます。ザポリージャ原発周辺の住民には、事故に備えて放射能から甲状腺を守る「安定ヨウ素剤」の配布が始まりました。



岸田首相、突然の方針転換  
ウクライナの戦争を口実に原発推進

ウクライナの戦争は、国際紛争が起きたときには、原発が「武器」や「オドシの道具」となり、核兵器を使うのと同じだということを現実で示しています。ところが、岸田首相は8月末、ウクライナ戦争でエネルギー危機になるので、原発の再稼働・新增設を進め、新型原子炉を開発し、老朽原発の運転期間も60年以上に延長すると突然言い出しました。自民党の総裁選の時に、「再生可能エネルギーを主力電源化し、原発への依存度を下げる」と言っていたのを忘れたのでしょうか。

## 一番の「安全保障」

全造船関東地協労働組合

一人でも誰でも入れる労働組合 よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505 TEL&FAX 045-575-1948 ホムページ <http://yuniyoko.sakura.ne.jp> 【2022年9月11日】

## 何も変わっていない 原発が行き詰まっている現実

7月の参議院選挙が終わった途端の方針転換が許されないのはもちろんですが、原発が行き詰まっている現実は何一つ変わっていません。使用済み核燃料の再処理や最終処分は全くメドが立っていません。規制委員会に運転禁止を命じられたり（柏崎刈羽原発）、避難計画の不備で裁判に負け、周辺住民の同意も得られなかったりと（東海第二原発）、原発が止まっているのにはそれぞれの理由があり、政府が号令をかけたからといって動かせるものではありません。

長い年月と莫大な費用をかけて新型原子炉の開発を行っても、経済性的見込みはなく、原子力施設で働く人が放射能を浴びたり、放射性廃棄物の問題を解決できないことに変わりはありません。地震が多発する日本で、老朽原発を60年以上も運転し続けることは、幸運だけを頼みにする危険きわまる「カケ」でしかありません。

## 原発にこだわり、取り残される日本 再生可能エネルギーへの転換こそ持続可能な道

原発推進へ回帰し、ばく大な資金と人的資源を投入することは、核廃棄物をさらに増やすだけでなく、再生可能な自然エネルギーへの転換や技術開発を邪魔します。大地震が起これば原発は一斉に止まり、それこそ東日本大震災の時のようにエネルギー危機になります。いくら防衛予算を増やして軍備を強化しても、原発を軍事紛争やテロ攻撃から守るすべはありません。技術を活かし、知恵を集めて再生可能な自然エネルギーに転換することこそが、持続可能な道です。

【組合員N】



### ■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起しましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010年4月）。

### ■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4～8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40代男性）は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！